

## バナンカブク・ファラジェ地区保健センター視察

9月29日、バマコ市内の第6区域にある、バナンカブク・ファラジェ地区保健センターの視察に行きました。ここは、1994年、日本の援助により建設された医療施設です。現在、26名のスタッフ（常勤医師2名、看護師8名）により24時間365日体制で地域の一次医療を担っており、地域の人々にとって必要不可欠な病院となっています。

患者はセンターに来るとまず券売り場に行き、診察券を購入します。一家族で年間1,000Fcfa（約200円；5Fcfa=約1円）の会員券を購入すると、一回の診察料が300Fcfa（会員券がない場合は600Fcfa）となります。路上生活者や70歳以上の高齢者は無料です。血液検査が必要な時は、券売り場に行き、検査券を購入してから検査が行われます。外来来院者は一日80人程度ですが、定期的に予防接種や出産教室が行われており、センター内は賑やかです。



赤ん坊の体重を量り、成育状態を確認



保健センター内の薬局

その中でも産科部門は特に賑やかであり、当地域の妊産婦の95%は医療機関で検診を受けるようになり、以前と比べて検診率は大きく向上したそうです。出産後は、回復室で6時間過ごし、その後、新生児ともにタクシー等で帰宅します。脇にそれますが、妊産婦のHIV陽性率は未だ4-5%と高率で、改めて、アフリカの深い問題を感じました。

ワクチン接種は、100Fcfaで以下のようなワクチンカード（写真参照）を作り、生後9ヶ月までに結核から髄膜炎まで全ての接種が終了します。

ワクチンカード表

ワクチンカード裏

これはユニセフの貢献が大きく、当地域では 20 年以上継続されており、90%以上の子供達が接種されています。



経口ワクチンの接種

地域医療を担っているという自負のためか、スタッフは皆熱心で、眼が輝いているのが印象的でした。しかし、スタッフの給料はかなり安く、医師 170,000Fcfa/月、看護師は 60,000Fcfa 程度であり（ちなみに缶ビール 800Fcfa、ピザ L サイズ 6,500Fcfa）、地域医療の使命と経営との板挟み状態で、組織が疲弊する前になんとか改善できないかと感じました。



バナンカブク・ファラジェ地区保健センター関係者と大使館職員